

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	282		
部 局 名	環境部	所 属 名	環境政策課
事務事業名	01190 環境人育成事業	所 属 長	高木 裕司
		記 入 者	山形 基之

＜1. 基本事項＞

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	環境基本法、環境教育等促進法
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り	関連する個別計画	大津市環境基本計画 大津環境人を育む行動計画
	政策	02	自然豊かな景観を守り育て、自然と共生するまちにします		
	施策	02	環境教育の推進		
	視点	01	「環境人」育成の推進		
重事	01	環境人の育成			
関連事業	コード	事務事業名称		コード	所属名称
予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	環境人育成事業費	
事業の概要	環境問題に関心を持ち豊かで快適な環境を創造していく人を育成するために、子どもの自然体験学習を充実させる。子どもと親・家族が豊かな本市の自然に学び、自然を楽しむ体験型環境教育を展開し環境にやさしく生きる力を持った「環境人」を育むことを目的として次の事業を実施する。 ・「自然家族」事業 ・「大津こども環境探偵団」事業 ・「指導者研修」事業				
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 出資団体委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input checked="" type="checkbox"/> その他（実行委員会の協力）				

＜2. 事業分析＞ PLAN

目的 (何のために)	人間の社会活動と環境の関わりにおいて、市民一人ひとりが深い理解と認識を持ち、各自が環境に配慮した生活・行動ができる「環境人」の育成を目的として
対象 (何又は誰を)	自然家族事業は子育て親子、こども環境探偵団事業は小学3年生～中学3年生、指導者研修事業は環境学習に携わる方を対象に
手段 (どのようなやり方で)	里、川、琵琶湖、山等のフィールドを利用した自然体験プログラムの実施（自然家族事業）、環境学習活動（大津こども環境探偵団事業）、及び研修支援（指導者研修事業）により
成果 (どのような状態にするのか)	「環境人」が増えた状態をつくる ※環境人とは、高い環境意識を有して積極的に環境行動を実践する人

＜3. 経費＞ DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		1,312	954	519	883	1,402	
人件費 B		12,517	10,974	11,407	12,710	12,710	
事業費合計 A+B		13,829	11,928	11,926	13,593	14,112	
事業費の内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	1,000	920	500	883	48	琵琶湖総合保全交付金
	一般財源	12,829	11,008	11,426	12,710	14,064	
職員数(人)		2.10	1.70	1.46	1.55	1.55	
職員数の内訳	正規	1.35	1.21	1.35	1.55	1.55	
	嘱託	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
	臨時	0.75	0.49	0.11	0.00	0.00	

＜4. 指標＞ DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	
活動指標	1	自然家族事業開催回数	回	目標	4	4	4	4	4	
				実績	4	8	7	-	-	
	各年度の自然家族事業の開催回数、活動実績数									
	2	大津こども環境探偵団環境学習回数	回数	目標	6	6	6	6	6	
実績				3	4	2	-	-		
各年度の大津こども環境探偵団環境学習事業の回数、活動実績数										
成果指標	1	自然家族事業参加者数	人	目標	400	400	400	400	400	
				実績	229	412	222	-	-	
	各年度における自然家族事業の参加者数									
	2	大津こども環境探偵団卒団生数	人	目標	1,930	1,990	2,050	2,110	2,110	
実績				1,930	1,974	2,003	-	-		
各年度末の大津こども環境探偵団卒団生数（第1期からの総数）										

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	365				
部 局 名	教育委員会	所 属 名	葛川少年自然の家	所 属 長	奥田 孝志
事務事業名	01436	ふるさと体験学習事業	記 入 者	佐々木 貢	

< 1. 基本事項 >

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	天津市立少年自然の家条例
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り		
	政策	02	自然豊かな景観を守り育て、自然と共生するまちにします	関連する個別計画	
	施策	02	環境教育の推進		
	視点	01	「環境人」育成の推進		
重事	01	環境人の育成			
関連事業	コード	事務事業名称		コード	所属名称
	01437	森林環境学習「やまのこ」事業		2460	葛川少年自然の家
予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	ふるさと体験学習事業費	
事業の概要	自然体験学習と集団宿泊体験を通して、自然を愛し、美しいものに感動する豊かな心を持ち、人間の力を越えたものに対する畏敬の念を深めるとともに、仲間づくりと集団生活の在り方を学び、心豊かでたくましい人間性の育成を目的とした活動を行っている。				
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 出資団体委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他 ()				

< 2. 事業分析 > PLAN

目的 (何のために)	21世紀に生きる心豊かでたくましい人間の育成を図るため、
対象 (何又は誰を)	中学校1年生を対象に(命の学習・キャンプファイアは、市内小学校4年生も対象)
手段 (どのようなやり方で)	少年自然の家やその周辺地域を利用して、集団宿泊体験やさまざまな自然体験活動を実施し、
成果 (どのような状態にするのか)	安全に生活する中で、自然の美しさや厳しさを感じとり、集団生活のあり方や仲間と協力するすばらしさを学ぶ。また自然環境の中で五感を使い、感性を養いつつ、的確な判断力、課題解決の実践力を培う。

< 3. 経費 > DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費	A	9,562	8,850	1,114	10,425	10,425	
人件費	B	8,505	5,667	3,319	6,362	6,362	
事業費合計 A+B		18,067	14,517	4,433	16,787	16,787	
事業費の内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	18,067	14,517	4,433	16,787	16,787	
職員数(人)		1.10	0.90	0.58	1.07	1.07	
職員数の内訳	正規	1.00	0.60	0.30	0.60	0.60	
	嘱託	0.10	0.10	0.00	0.00	0.00	
	臨時	0.00	0.20	0.28	0.47	0.47	

< 4. 指標 > DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
活動指標	1	ふるさと体験学習参加者数	人	目標	2,810	2,987	2,906	3,036	0
				実績	2,763	2,945	0	-	-
		天津市立中学1年生実数							
成果指標	1	ふるさと体験学習のねらいの達成度	%	目標	90	90	90	90	0
				実績	94.4	93.75	0	-	-
		各校実施後の4段階自己評価の割合を100点満点に換算したもの							
2				目標					
				実績					

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	コロナ感染拡大防止のため、宿泊活動が中止となり、体験活動も大きく制限がかかるようになった。中学校1年生においては、ふるさと体験事業が中止になり、小学校においても日帰りの活動となった。	
これまでの見直しや改善等の経過	自然の家での活動を教育課程に位置づけ、教科等の関連を明らかにし、活動のねらいと教科のねらいのつながりを意識した計画となるよう、各学校と相談や指示や助言をした。	
項目別評価	評価	評価理由
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input type="checkbox"/> A. 妥当である <input checked="" type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	子どもたちが自然体験を含むさまざまな実体験や機会が減少する中、次世代を担う大津の子どもたちが、心豊かでたくましい人間性を身につけるため、市が意図的・計画的に事業を実施していく必要がある。
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input type="checkbox"/> A. 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	昭和62年より「ふるさと体験学習」として、豊かな体験活動と賢くたくましい心を育む事業を教育課程に位置づけて行っており、豊かな感性を培い、賢くたくましい心を育む手立てとして有効であると考えている。特に、中学校1年生は入学して間もないことから、仲間作りや自然に親しむ活動の場として、学校全体で創意工夫しながら展開している。
効率性 (事業手法は効率的であるか)	<input type="checkbox"/> A. 高い <input checked="" type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	自然体験学習や集団宿泊体験を実施することで、命の大切さや仲間と協力することの大切さ、集団生活の在り方を限られた時間の中で学ぶことができている。小学校4年生においては、「やまのこ事業」と連携することで、森林学習に加えて命の学習も行うことができ、充実した活動が展開できている。
総合評価	<input type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模や見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	<input type="checkbox"/> A. 貢献している <input checked="" type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	自然体験学習や集団宿泊体験学習を通して、心豊かでたくましい人間性を身につけ、仲間と協力することの大切さ、集団生活の在り方を学ぶことができおり、「青少年が健全に育つまちづくり」に貢献している。
---------	--	---

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了() <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止
部局長コメント	<p>安全に活動するために感染症対策マニュアルを作成し、各プログラムの安全対策について見直す。宿泊再開に向けて内容を精選しながら、宿泊体験や野外活動を通して自己選択・自己決定・自己実現ができる場としていき、子ども達にとって充実した活動となるようにしていく。</p> <p>天津市の豊かな自然の中で宿泊体験や野外活動を経験し、良好な人間関係の構築や主体的に行動する態度の育成を学ぶ体験は、他では得がたい体験である。今後は、引き続き、学校、保護者、生徒の思いを改善アンケートで把握し、内容の充実に取り組むと共に、各学校が主体的な活動の取り組みとして展開する必要がある。</p>

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標達成率	指標1	104.88 %	104.16 %	0.00 %
	指標2	- %	- %	- %
成果増減率	指標1	- %	-0.68 %	-100.00 %
	指標2	- %	%	%
活動単位コスト	指標1	6 千円	4 千円	0 千円
	指標2	- 千円	- 千円	- 千円
成果単位コスト	指標1	191 千円	154 千円	0 千円
	指標2	- 千円	- 千円	- 千円
コスト増減率		- %	-19.09 %	±0.00 %

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	366				
部 局 名	教育委員会	所 属 名	葛川少年自然の家	所 属 長	奥田 孝志
事務事業名	01437	森林環境学習「やまのこ」事業	記 入 者	濱村 知	

< 1. 基本事項 >

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	天津市立少年自然の家条例
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り		
	政策	02	自然豊かな景観を守り育て、自然と共生するまちにします		
	施策	02	環境教育の推進		
	視点	01	「環境人」育成の推進		
	重事	01	環境人の育成	関連する個別計画	

関連事業	コード	事務事業名称	コード	所属名称
	01436	ふるさと体験学習事業	2460	葛川少年自然の家

予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	森林環境学習「やまのこ」事業費	

事業の概要
 森林をはじめとする環境に理解を深めるとともに人と豊かに関わる力をはぐくむため、学校教育の一環として小学4年生を対象に・川少年自然の家とその周辺森林を使った体験型の学習を行う。

運営方法 直営 指定管理者 民間委託 出資団体委託 補助金交付 その他 ()

< 2. 事業分析 > PLAN

目的 (何のために)	森林をはじめとする環境に理解を深めるとともに人と豊かに関わる力を育むために
対象 (何又は誰を)	天津市内全小学校4年生37校及び・川少年自然の家での事業実施を希望する県内の小学4年生を対象に、
手段 (どのようなやり方で)	自然の家やその周辺森林を利用し、集団宿泊体験(1泊2日)とさまざまな森林環境学習を実施し、
成果 (どのような状態にするのか)	森林に興味を持ち、その働きの重要性や危機回避する力を身につけ、環境を守ろうという意欲をもつ。優しさや思いやり、協力し合う心の大切さに気づく。

< 3. 経費 > DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		12,543	12,578	13,216	13,620	13,620	
人件費 B		14,310	12,477	16,155	15,028	15,028	
事業費合計 A+B		26,853	25,055	29,371	28,648	28,648	
事業費の内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	16,807	16,443	14,581	15,896	15,896	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
一般財源		10,046	8,612	14,790	12,752	12,752	
職員数(人)		3.40	2.80	3.09	2.89	2.89	
職員数の内訳	正規	1.20	1.10	1.30	1.20	1.20	
	嘱託	0.20	0.10	0.00	0.00	0.00	
	臨時	2.00	1.60	1.79	1.69	1.69	

< 4. 指標 > DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度
活動指標	1	森林環境学習「やまのこ」事業受入者数	人	目標	3,238	3,220	3,167	3,131	3,121
				実績	3,204	3,108	3,219	-	-
令和2年度小学4年生実数より算出									
成果指標	1	事業の「取り組み」についての達成度	%	目標	90	90	90	90	90
				実績	92.6	93.3	86.4	-	-
「取り組み」の4段階事後評価(学校・指導員)を100点に換算									
成果指標	2			目標					
				実績					

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	学習指導要領の中の「豊かな心と生きる力を育む」ためにも、1泊2日の森林環境学習「やまのこ」事業の取り組みへの期待は大きいものの、新型コロナウイルス感染症の影響により日帰りでの実施となった。		
これまでの見直しや改善等の経過	条例に基づき、平成19年度より当事業が学校教育の一環として県内小学校4年生を対象に施行された。		
項目別評価	評価	評価理由	
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	当施設は森林に囲まれた葛川地区に立地し、森林環境学習「やまのこ」事業を行った38校は、森林をはじめとする環境に理解を深めるとともに、人と豊かに関わることができた。	
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input type="checkbox"/> A. 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	参加児童が、植物探しゲームや、間伐材を利用したクラフトなどの体験活動を通して、森林環境保全を行うことで水環境も守れるなど関連していることに気づくことができた。また、集団宿泊体験により、友だちのよさに気づき、仲間意識を高めることができるものと考えられる。	
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input type="checkbox"/> A. 高い <input checked="" type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	森林環境学習「やまのこ」事業に参加した子どもたちは森林に興味を持ち、その役割を理解するとともに、仲間と協力し生活していく大切さに気づかせることができた。	
総合評価	<input type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模や見直しが必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要		

施策への貢献度	<input checked="" type="checkbox"/> A. 貢献している <input type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	自然体験学習を通して、仲間と協力しながら自主的に行動するという社会性や環境人の育成に貢献することができた。
---------	--	---

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了 () <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止	滋賀県の補助事業として学校教育に位置づけ、小学4年生を対象に行う森林環境学習であり、大津市が掲げている環境人の育成にも合致している。新型コロナの影響で日帰りとなったが、本事業の活動は一定の評価を得ている。感染対策を講じた上で、集団宿泊体験ができるよう改善を行い、継続していく。
部局長コメント	葛川の豊かな自然を生かして、森を教材とし、森を守るための取り組みについて学んだり、間伐材を利用した活動をしたりすることは、森林環境学習の推進や大津市の環境人育成につながっている。感染対策を図りつつ、今後も人が豊かに関わる力を育み、持続可能な社会の形成に積極的に寄与する次世代の育成に努める事業を推進する。	

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分	平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標達成率	指標1 102.88 %	103.66 %	96.00 %
	指標2 - %	- %	- %
成果増減率	指標1 - %	+0.75 %	-7.39 %
	指標2 - %	%	%
活動単位コスト	指標1 8 千円	8 千円	9 千円
	指標2 - 千円	- 千円	- 千円
成果単位コスト	指標1 289 千円	268 千円	339 千円
	指標2 - 千円	- 千円	- 千円
コスト増減率	- %	-7.39 %	+26.58 %

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	367		
部 局 名	教育委員会	所 属 名	葛川少年自然の家
事務事業名	01438 研修事業	所 属 長	奥田 孝志
		記 入 者	辻 和江

< 1. 基本事項 >

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	天津市立少年自然の家条例
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人々が集うまちを創り		
	政策	02	自然豊かな景観を守り育て、自然と共生するまちにします	関連する個別計画	
	施策	02	環境教育の推進		
	視点	01	「環境人」育成の推進		
重事	01	環境人の育成			
関連事業	コード	事務事業名称		コード	所属名称
予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	自然の家研修事業費	
事業の概要	子どもたちの学校外体験活動の充実を図る社会教育施設として、自然の家の役割が一層増している。そこで研修事業の自然体験学習に子どもたちの五感に働きかける活動を多く取り入れ、心豊かな人間性の育成を図ることを目標に掲げ主催研修事業を実施する。				
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 指定管理者 <input type="checkbox"/> 民間委託 <input type="checkbox"/> 出資団体委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> その他 ()				

< 2. 事業分析 > PLAN

目的 (何のために)	自然体験や野外活動を通して青少年の健全育成を図るとともに、地域リーダーやボランティア等の青少年の指導者の育成を図るために。
対象 (何又は誰を)	天津市内の小学生、中学生、高校生、大学生及び小中学生を含む家族、大津市民を対象に。
手段 (どのようなやり方で)	葛川の豊かな自然環境を活かし、宿泊研修や日帰り研修の中で、さまざまな野外活動プログラムや自然体験活動を実施し、
成果 (どのような状態にするのか)	自然の素晴らしさや偉大さを感じ、仲間と協力することの大切さや家族のふれあいを深めるとともに、探究する楽しさと問題解決能力を養う。また、地域ボランティアやリーダー等の指導者が育つ。

< 3. 経費 > DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費	A	1,006	1,757	750	1,980	1,980	
人件費	B	4,405	3,177	4,415	5,312	5,312	
事業費合計 A+B		5,411	4,934	5,165	7,292	7,292	
事業費の内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	1,499	1,030	118	850	850	
	一般財源	3,912	3,904	5,047	6,442	6,442	
職員数 (人)		0.60	0.60	0.77	0.97	0.97	
職員数の内訳	正規	0.50	0.30	0.40	0.50	0.50	
	嘱託	0.10	0.10	0.00	0.00	0.00	
	臨時	0.00	0.20	0.37	0.47	0.47	

< 4. 指標 > DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	
活動指標	1	重点研修事業応募者数	人	目標	150	150	300	300	300	
				実績	168	179	482	-	-	
	葛川自然学校・ちっちゃい秋探険隊・北風わんぱくキャンプ・イングリッシュキャンプの応募者数									
	2	市民対象事業応募者数	人	目標	300	300	150	150	150	
実績				379	280	96	-	-		
ボランティア養成・わくわくクラフト・ファミリーキャンプ・防災キャンプの応募者数										
成果指標	1	重点研修事業実施後のアンケートによる満足度	%	目標	90	90	90	90	90	
				実績	95.7	98	94	-	-	
	事後アンケート5段階評価を100点満点に換算したもの									
	2	市民対象事業実施後のアンケートによる満足度	%	目標	90	90	90	90	90	
実績				0	98	96	-	-		
事後アンケート5段階評価の100点満点に換算したもの										

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	368		
部 局 名	教育委員会	所 属 名	葛川少年自然の家
事務事業名	02072 少年自然の家施設改修事業	所 属 長	奥 田 孝 志
		記 入 者	松 井 和 久

＜1. 基本事項＞

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	天津市立少年自然の家条例
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人々が集うまちを創り		・川地区振興整備計画
	政策	02	自然豊かな景観を守り育て、自然と共生するまちにします		
	施策	02	環境教育の推進		
	視点	01	「環境人」育成の推進		
重事	01	環境人の育成			

関連事業	コード	事務事業名称	コード	所属名称
	00885	少年自然の家管理運営事業	2460	葛川少年自然の家
	00886	環境にやさしい施設管理事業	2460	葛川少年自然の家

予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	特定	評価対象事業	少年自然の家施設改修事業費	

事業の概要
 当施設は旅館業法、消防法、建築基準法等に基づき安全で安心できる施設の管理を行っている。その中で老朽化等により施設改修の必要な部分は順次改修を行うこととし、また、利用の効率を高めるために施設の充実も図っている。

運営方法 直営 指定管理者 民間委託 出資団体委託 補助金交付 その他 ()

＜2. 事業分析＞ PLAN

目的 (何のために)	集団自然体験が出来る施設として、安全で安心な施設の維持管理を図るため
対象 (何又は誰を)	集団による自然体験学習を通して明るくたくましい人間形成に努める利用者(団体)を対象に
手段 (どのようなやり方で)	老朽化等による施設の状況を法定点検結果や目視による日常の点検により把握し、施設の改修工事を実施することにより
成果 (どのような状態にするのか)	利用者に対し、安全と安心、満足感を与える施設環境を提供する

＜3. 経費＞ DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		1,577	15,486	1,243	8,954	3,005	
人件費 B		4,405	5,287	3,556	3,096	3,096	
事業費合計 A+B		5,982	20,773	4,799	12,050	6,101	
事業費 の財源 内 訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	6,700	0	
	その他	0	0	0	0	0	
	一般財源	5,982	20,773	4,799	5,350	6,101	
職 員 数 (人)		0.60	0.70	0.49	0.49	0.49	
職員数 の内訳	正 規	0.50	0.60	0.40	0.40	0.40	
	嘱 託	0.10	0.10	0.00	0.00	0.00	
	臨 時	0.00	0.00	0.09	0.09	0.09	

＜4. 指標＞ DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	
活動指標	1	団体への貸出稼動泊数	泊	目標	148	149	149	100	100	
				実績	103	95	0	-	-	
	目標は、団体宿泊可能日数かける0.8、実績は、団体が宿泊した日数									
成果指標	1	一般利用団体の申込みでのリピーター数	団体	目標	30	30	10	5	5	
				実績	23	15	0	-	-	
	直近2年間における申し込みに対する数									
	2				目標					
実績										

<5. 評価> CHECK

事業を取りまく社会環境の状況	新型コロナウイルス感染症の影響により、宿泊を伴う利用は中止となり日帰りでの利用であるが、利用者（利用団体）にとっては、施設の充実や不良箇所の改善（改修）が求められている。		
これまでの見直しや改善等の経過	優先順位を考え、施設の充実・改善を図る。		
項目別評価	評価	評価理由	
妥当性 (実施主体又は手段は妥当か)	<input checked="" type="checkbox"/> A. 妥当である <input type="checkbox"/> B. ほぼ妥当である <input type="checkbox"/> C. あまり妥当ではない <input type="checkbox"/> D. 妥当ではない	施設の充実及び不良箇所の改善により、施設の安全と快適な施設環境を整えることができる。	
有効性 (事業分析の「成果」欄に記載の成果は上がっているか)	<input type="checkbox"/> A. 上がっている <input checked="" type="checkbox"/> B. やや上がっている <input type="checkbox"/> C. あまり上がっていない <input type="checkbox"/> D. 上がっていない	利用者が安全で安心して施設を利用することができる。	
効率性 (事業手法は効率的であるか。)	<input type="checkbox"/> A. 高い <input checked="" type="checkbox"/> B. やや高い <input type="checkbox"/> C. やや低い <input type="checkbox"/> D. 低い	施設の充実・改善により、良好で効率的な施設環境を与えることができる。	
総合評価	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 計画どおり事業を進めることが適当 <input type="checkbox"/> 3. 事業規模や見直しが必要	<input type="checkbox"/> 2. 事業の進め方に改善が必要 <input type="checkbox"/> 4. 事業の抜本的見直しや廃止が必要	

施策への貢献度	<input type="checkbox"/> A. 貢献している <input checked="" type="checkbox"/> B. やや貢献している <input type="checkbox"/> C. あまり貢献していない <input type="checkbox"/> D. 貢献していない	施設の改修・整備により安全で安心な施設環境を与えることができ、青少年が健全で育つまちづくりに貢献している。
---------	--	---

<6. 今後の方向性> ACTION

方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 1. 現状のまま継続 <input type="checkbox"/> 2. 見直しの上で継続 (<input type="checkbox"/> 2-1. 拡充・重点化 <input type="checkbox"/> 2-2. 手段等の改善 <input type="checkbox"/> 2-3. 効率化 <input type="checkbox"/> 2-4. 簡素化・縮小 <input type="checkbox"/> 2-5. 統合 <input type="checkbox"/> 2-6. その他) <input type="checkbox"/> 3. 終期の設定 <input type="checkbox"/> 4. 終了() <input type="checkbox"/> 5. 休止 <input type="checkbox"/> 6. 廃止	現在は日帰りでの施設利用であるが、自然の中で集団自然体験ができる施設として、今後も利用者（団体）に対して安心・安全で満足感が与えられる施設環境を整えるため改修事業を実施していく。
部局長コメント	本所は、多くの市民に求められている施設であることから、ウイズコロナの社会においても安全・安心な施設として、利用者の要望に応えられる体験活動ができるよう今後も関係機関と協議し、改修計画を立案し、継続的な改修工事を進めていく。	

<7. 評価分析> ※成果増減率、コスト増減率は対前年度比

区分		平成30年度	平成31年度	令和2年度
目標達成率	指標1	76.66 %	50.00 %	0.00 %
	指標2	- %	- %	- %
成果増減率	指標1	- %	-34.78 %	-100.00 %
	指標2	- %	%	%
活動単位コスト	指標1	58 千円	218 千円	0 千円
	指標2	- 千円	- 千円	- 千円
成果単位コスト	指標1	260 千円	1,384 千円	0 千円
	指標2	- 千円	- 千円	- 千円
コスト増減率		- %	+432.46 %	±0.00 %

令和 3年度 事務事業評価シート

[令和 2年度事後評価]

整理番号	369		
部 局 名	教育委員会	所 属 名	葛川少年自然の家
事務事業名	00885 少年自然の家管理運営事業	所 属 長	奥 田 孝 志
		記 入 者	松 井 和 久

< 1. 基本事項 >

総合計画の位置付け	区分	コード	名 称	根 拠 法令等	天津市立少年自然の家条例 ・川地区振興整備計画
	方針	02	自然、歴史、文化、スポーツを重視し、多くの人が集うまちを創り		
	政策	02	自然豊かな景観を守り育て、自然と共生するまちにします		
	施策	02	環境教育の推進		
	視点	01	「環境人」育成の推進		
	重事	99	その他	関連する個別計画	

関連事業	コード	事務事業名称	コード	所属名称
	00886	環境にやさしい施設管理事業	2460	葛川少年自然の家
	02072	少年自然の家施設改修事業	2460	葛川少年自然の家

予算事業	会計	枠	事業種別	予算事業名	始期・終期
	一般会計	管理	評価対象事業	少年自然の家管理運営事業費	

事業の概要
当施設は、昭和62年開設以降34年が経過し、令和2年度末、延べ約83万6千人の利用者があり、・川の豊かな自然環境の中での自然体験活動を通じて、子どもたちに自然の偉大さや神秘さを体験させ、豊かな情操を育むとともに明るくたくましい生き方を学ばせ、よりよい人間関係を育てることを目的として施設の管理運営を行っている。

運営方法 直営 指定管理者 民間委託 出資団体委託 補助金交付 その他 ()

< 2. 事業分析 > PLAN

目的 (何のために)	利用者にやさしく環境にやさしい集団自然体験施設として、適正な施設管理運営を行なうため
対象 (何又は誰を)	自然体験学習を通して、明るくたくましい人間形成に努める利用者(団体)を対象に
手段 (どのようなやり方で)	設備維持管理のための保守点検、清掃等美化業務、その他管理運営のための業務を行うとともに施設、設備の維持補修を行い
成果 (どのような状態にするのか)	当施設の利用者に安心、安全な施設の利用環境を提供する

< 3. 経費 > DO

		平成30年度 決算額(千円)	平成31年度 決算額(千円)	令和 2年度 決算額(千円)	令和 3年度 予算額(千円)	令和 4年度 見込額(千円)	備 考
直接経費 A		46,903	45,447	31,449	44,820	44,820	
人件費 B		14,340	9,835	12,870	8,447	8,447	
事業費合計 A+B		61,243	55,282	44,319	53,267	53,267	
事業費の内訳	国	0	0	0	0	0	
	県	0	0	0	0	0	
	起債	0	0	0	0	0	
	その他	18,452	16,228	0	16,250	16,250	
	一般財源	42,791	39,054	44,319	37,017	37,017	
職員数(人)		2.00	1.50	2.02	1.53	1.53	
職員数の内訳	正規	1.60	1.00	1.30	1.00	1.00	
	嘱託	0.40	0.50	0.00	0.00	0.00	
	臨時	0.00	0.00	0.72	0.53	0.53	

< 4. 指標 > DO

		指 標 名	単 位	目標・実績	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	
活動指標	1	団体への貸出稼働泊数	泊	目標	148	149	149	100	100	
				実績	103	95	0	-	-	
	目標は、団体宿泊可能日数×0.8、実績は、団体が宿泊した日数									
成果指標	1	利用団体数	団体	目標	123	123	123	100	100	
				実績	95	93	48	-	-	
	目標、実績は利用した団体数									
	2	利用者の宿泊人数(延べ人数)	人	目標	12,800	11,920	11,920	10,000	10,000	
実績				10,498	8,520	0	-	-		
目標は、稼働日数×80人/泊、実績は利用団体の宿泊者延べ人数										

